

ケア CareManager マネジャー

薬の知識をもとう

基本を身につけるだけで実践力アップ!
薬の効能、リスク、服用の工夫など満載

ケアプランの書き方・考え方

自宅で最後まで暮らしたい
本人の強い思いを支える

Wノリコのつなぐソーシャルワーク

デイからの帰宅にあわせて
担当者会議をしませんか?

認知症ゼミナール

アルツハイマー病③

在宅支援の現場から

仲間に、夫に支えられて
笑顔満開・パワー全開

看取りの記録

LIFE=「人生」としてとらえて

◆短期集中講座

一から学ぶ口腔ケア③

入れ歯(義歯)について

高齢者のQOL (Quality of Life) にも寄与する重要な手段として注目されている口腔ケア。ケアマネジャーが口腔ケアに関する知識を備えることで、より適切なケアプランを作成することができます。口腔ケアに関する知っておきたい知識を、基本からやさしく解説します。



入れ歯(義歯)について

最近では、カラオケにでかけて「入れ歯が汚い」と友人に言われたり、歌っている最中に入れ歯(義歯)が外れたりして、何とかしてほしいと受診される患者さんもいらっしゃいます。以前には考えられなかった受診理由ですが、それだけ高齢者の生活の幅が広がっているということなのかもしれません。

さて、義歯とは歯が欠損した際に行う治療で、部分床義歯(部分入れ歯)、総義歯(総入れ歯)などさまざまなものがあります。義歯を装着することによって、噛む機能が向上し栄養状態が改善されたりと健康面への寄与のほか、見た目の若々しさを維持し、冒頭の例のように活発な社会的交流も期待できます。

この義歯の清掃や管理も、口腔ケアの重要な要素です。

今回は、多くの利用者さんが使用し、また生活の質にも大きな影響を与える入れ歯(義歯)について述べてみたいと思います。

義歯の取扱い

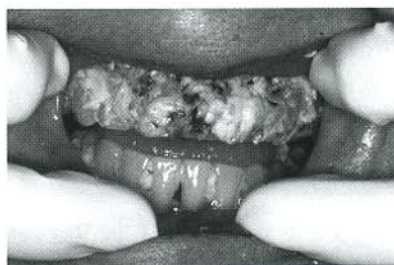
義歯の扱いは、「食後に外して洗い、寝る前には外して義歯洗浄剤に浸けておけばいい」と思っている人は多いかと思います。しかし実際には、毎日・毎食後にこうした行為を継続することは難しく、また取り扱い方によってはトラブルも発生します。そこで、義歯扱いの注意点について述べてみます。

1. 着脱(取り外しなど)について

総義歯(総入れ歯)を除き、一部ご自分の歯が残っている場合は、義歯の着脱法は個々に異なります。偶発事故として歯肉に傷を負う、歯牙の動揺が強くなる、義歯が壊れる、歯牙が抜ける、などがあります。そのため着脱が困難な場合には、歯科医師に指導を受けてください。

また、2週間以上義歯を使用しない場合、歯牙や歯肉の状態が変化して合わなくなり、作り直しとなることもあります。

①着脱 義歯の着脱(入れる、外す)には、決まった方向があります。利用者本人や介護者、歯科関係者に装着する方向とコツの指導

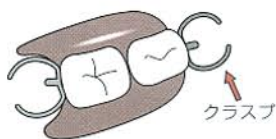


食物残渣の付着した義歯

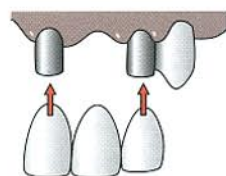
義歯にはいくつかの種類があります。歯科医師に連絡をする時など、状態を知らせるためにも正しい名称を知っておくとスムーズです。



総義歯（総入れ歯）
一般に総入れ歯と呼ばれるもの。歯が一本も残っていない場合に使われます。



部分床義歯（部分入れ歯）
部分的に歯がない場合に利用されます。残っている歯にかける金属のバネをクラスプと呼び、このクラスプを右のブリッジと混同することが多いので注意しましょう。



ブリッジ
隣の歯を土台にして、口の中に固定されています。

を受け、ケアチームの誰でもできるようにしておくといでしょう。

②部分床義歯の取り外し方 部分入れ歯（部分床義歯）には、義歯を残っている歯で固定するための金属のバネ（クラスプ）がついています。このクラスプは残存歯牙にかかっているため、義歯の歯・床の部分を引き上げられるのではなく、クラスプのかかっている歯を押さえ、爪でクラスプを外す方向へ引き上げます。クラスプが複数ある場合には、これらも取り外す方向が一定方向に決まっているので、ほかのクラスプの動きを観察しながら注意深く引き上げていきます。

2. 清掃について

①義歯を外した後、流水で大きな汚れ（食べ物の残渣物など）を取り除き、義歯洗浄剤の入った液の中に義歯全体が浸かるように入れます。不潔になるので液は毎回取り替えます。

②義歯を清潔にする効果的方法は、義歯洗浄剤に規定の時間（洗浄剤の使用説明書に記載してあります）浸けておいた後、その溶液を付けながらブラシを用いて義歯を洗浄することです。その後、流水で洗い落とします。

③義歯に頑固な汚れが残っている場合は、無

理にけずりとったりしないで歯科医師に相談してください。

3. 洗浄剤について

①たまに見られるケースですが、義歯洗浄剤を自分勝手に幾種類もの薬剤を混ぜて使用すると、義歯が変色したり、壊れやすくなることがあります。1種類だけを説明書に明記されていることを守って使用します。

②錠剤タイプの洗浄剤の場合、指先が不自由な人では包装から錠剤を取り出すことが難しいので、ワンタッチの容器に入った粉末状のタイプがオススメです。

③認知症の利用者さんでは、洗浄剤の誤飲に注意する必要があります。内服薬と間違えて飲んでしまうといった事故も起きています。危険性が予期される場合は、置き場所に注意しましょう。

4. 義歯安定剤・接着剤について

①安定剤にはパテ、ゼリー、シート、粉末などがあります。選択にあたっては、使用する人の手指の状態や機能から判断することが大切です。なお、高齢者では粉末やシート状のものが使いやすいことが多いです。

②安定剤は付け過ぎると、かえって安定が悪

くなります。説明書にしたがって適量を付けるようにします。

③安定剤は、説明書を参考に使用したら必ず毎食後に取り替え、義歯の清潔を保ちます。

④古くなって義歯に付着している安定剤は無理に除去しないようにします。義歯は意外にデリケートですので歯科医師へ相談してください。

⑤洗剤と同じく、薬と間違えてしまうことがあります。利用者さんによっては、誤飲に注意が必要です。

5. 保管と紛失について

①義歯の紛失は意外に多いものです。ティッシュなどに包んで保管していると、家族や看護・介護者が間違えて捨ててしまうこともあります。紛失を防ぐためにも、決められた場所や容器に保管するようにしましょう。

②認知症の利用者さんの場合、自分の義歯と他人の義歯とが区別できずに間違えて他人の義歯を持ち去ってしまうことがあります。デイサービスやショートステイを利用している場合などは、誰の物か職員などにもわかるように、保管容器に名前などを大きく書いておきましょう。

③保管容器は清潔な場所に置き、また、容器自体も清潔にしておきましょう。

④デイなど、高齢者が多く集まるところに通っていると、間違えて人の義歯を使っていることもあります。取り違えを防ぐには、義歯に名前を入れる（義歯の歯ぐき部分に名札を入れ、透明のプラスチックでふたをします）

方法もあります。

⑤認知症の利用者さんは、義歯を紛失することが少なくありません。私の経験からは、紛失した場合、ティッシュペーパーの箱、仏壇、冷蔵庫、冷凍庫、タンス、靴の中、靴箱、レンジ、トイレのタンクの中など、意外な所にしまわれていることがあります。

6. 義歯を利用する上での留意点

①全身状態が悪化したら取り外し、全身状態が好転したらできるだけ早期に使用してもらうことが大切です。2週間も外したままにすると入らなくなることがありますので、取り外したままにしないようにしましょう。また、合わなくなってしまうたら無理に装着しないようにします。入らないときは、歯科医師へ連絡をしてください。

②義歯の安定が悪い場合や破損している場合には誤飲・誤嚥をしやすくなるので、適切な装着となっているか、こわれていないか注意しましょう。

③義歯が原因により疼痛が生じることもあります。疼痛があると、食べ物を噛まずに飲み込んで窒息することがあるので要注意です。なお疼痛の場合、応急的に割り箸に挟んだサンドペーパーややすりなどで、当たっている部分の義歯を削ることができますが、その後は、歯科医師に連絡し診てもらうことが必要となります。また、破損した場合、ボンドや接着剤で勝手に修理をする人もいますが、かえって修理が難しくなってしまうので、素人修理はしないようにします。

④体重の減少がみられる場合には、歯茎が萎縮し義歯が不適合になるので、体重の変化に注意します。

⑤義歯が原因で歯肉に挫滅創や裂傷ができ、思いもしない出血をきたすこともあります。

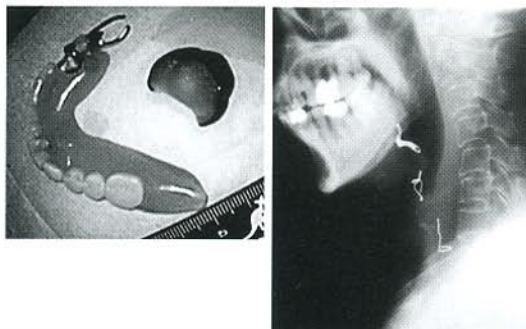
⑥義歯は誤飲・誤嚥防止のためにも、就寝時には外します。ただし認知症の利用者さんで、不穏になる場合には、上顎だけはめておくなどして対応します。

以上、これまでの経験から義歯について述べてみました。義歯は高齢者のQOLとも密接に関係しています。ケアマネジャーさんも義歯について知っておくことが肝要でしょう。また、アセスメントをとおして問題があるように感じたら、すぐにかかりつけの歯科医師などに相談するようにしてください。

⑦ 認知症と義歯

義歯に関して、ケアマネジャーさんが特に苦勞することが多いのは認知症の利用者さんの場合でしょう。認知症が進行すると、義歯のことがだいにわからなくなってきます。

誤飲した義歯ときゅうり(左)、
誤飲した義歯のレントゲン写真(右)



- ・口の中に入っているのか？
- ・どこに片づけたのか？
- ・義歯の上下もわからない。義歯が、何かもわからない。
- ・義歯を入れようとする、抵抗して、手を払いのけたする。取り外そうとすると噛みついたり。
- ・義歯を捨てたり、投げたり、あるいは車いすで轢いてしまったり。
- ・義歯の安定剤や接着剤を食べたり、洗浄剤を薬と思って飲み込んだり。
- ・施設では、他人の入れ歯をはめていたり。
- ・義歯を飲み込んでも平気にしていたり。

などなど、皆さんもご経験のことと思いますが、なかなか大変です。また、義歯を取り外すことにより不穏を呈することもあるので、対応にも苦勞することが少なくありません。

それ以上に大変なのは、進行した認知症の利用者さんに義歯を作ってほしいと、ご家族が強く希望される場合です。

残念ながら、ほぼ作ることはできません。たとえ作っても、その義歯を使うことができません。多くの場合は、現在の義歯に接着剤を利用して食事をしていただくなどしかできません。義歯に過大な希望を抱くご家族もいらっしゃるかもしれませんが、このあたりはケアマネジャーさんにご家族との話し合いや調整をお願いしたいところです。

プロフィール 鈴木俊夫：鈴木歯科医院院長、日本口腔ケア学会理事長、日本老年歯科医学会指導者。著書に「訪問介護事業者のための感染症ハンドブック」(共著・中央法規)など/鈴木聡：愛知学院大学歯学部非常勤助手、日本障害者歯科学会認定医